

令和7年度教育課程

1. 学校の教育目標

1 本校教育の目標

ふるさと嘉瀬を愛する青藍の子の育成

2 目指す学校像 ～ 誰一人とり残さない！学び続ける学校 ～

「子どもたちを真ん中において」～学校・保護者・地域とともに～

- ・ 子どもたちが、安心して生活し、生き生きと学習する嘉瀬小に！
- ・ 子どもたちの笑顔が“嘉瀬まち”にあふれる嘉瀬小に！
- ・ 「開かれた学校」として保護者や地域から親しまれ、信頼される嘉瀬小に！
- ・ 職員が元気で、職員室に笑顔と活気がある嘉瀬小に！

3 目指す子ども像 「青藍」の子 ～青藍の心を、さらに高めようとする子ども～

・よく考える子 ＜知＞	・思いやりのある子 ＜徳＞	・美を求める子 ＜徳＞	・よく働く子 ＜徳・体＞	・たくましい子 ＜体＞
----------------	------------------	----------------	-----------------	----------------

よく考える子＜自ら知を高める子ども＞

- 話をよく聴く
- 主体的に考えを出し、学び合う
- ねばり強く学習に取り組む
- 読書に親しむ
- 自主的に家庭学習に取り組む

思いやりのある子・美を求める子＜自ら徳を磨く子ども＞

- 気持ちの良いあいさつができる
- 丁寧な言葉づかいができる
- 後片付け、整理整頓ができる
- 命を大切にし、人を思いやり、助け合う
- 時間やルールを守る

たくましい子・よく働く子＜自ら体を鍛える子ども＞

- 早寝、早起き、朝ご飯を実践する
- 健康や安全に気をつける
- 太陽の光を浴び、外で元気に遊ぶ
- 人や物に感謝し、汗を流して働く
- 目標や夢をもち、あきらめずにがんばる



4 目指す教師像 「個別最適な学びをめざし、学び続ける教師集団」

- ◎ 一人一人の子どもを認め、ほめて、伸ばす教師
- ◎ 児童や保護者の心に寄り添い、信頼関係を築くことができる教師
- ◎ 教師としての使命感を持ち、他者と対話し協働しながら、目標に向かって仕事に専念する教師

2. 本校の教育の特色

(1) 地域と共に市民性や郷土愛を持つ、志の高い子どもを育てるコミュニティースクールとしての学校づくりの推進

※ R7：地域学校協働本部の立ち上げ…名称：嘉瀬小ボランティアネットワーク（新 KSVN）

- ・ 家庭・地域と連携、協働し、共に子どもを育てる教育実践（学校支援ボランティア：既存の KSVN）
- ・ 地域人材、学習材を活用し、より豊かな授業を探究する教育実践（ふるさと学習）

(2) 幼保こ小中連携教育の充実

- ・ 幼保こ小連携・・・校区内4園との年間を通じた計画的な交流
- ・ 小中連携・・・小中交流及び校区内3小学校交流

(3) 「SDGs」の視点を取り入れた教育の継続

- ・ よりよい社会を目指して主体的に働きかけ、学び続ける子どもの育成

3. 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

「五青藍」で自分づくりをする中で、自らが、知・徳・体を磨き伸ばし、バランスのとれた児童が育つ。

(1) 豊かな心・思いやりの心が育つ ～気持ちのいいあいさつができ、友達と仲良くできる子どもが育つ～

(2) 確かな学力が身に付く ～目標に向かって主体的に学習できる子どもが育つ～

(3) たくましく、自らを伸長する力が育つ～生活リズムを確立し、自分の健康・命を守れる子どもが育つ～

(4) 主体的に活動し、やりぬく力が育つ ～ふるさとに学びふるさとを誇りに思う、志高い子どもが育つ～

(1) <徳磨き・心磨き>豊かな心・思いやりの心が育つ

ア、元気なあいさつがとびかう学校づくり

- ・ 児童会や学級、たてわり班によるあいさつ運動の工夫・充実に取り組む。
- ・ 豊かな心育成部を中心に、年間を通してあいさつのレベルアップを目指す取組をする。

イ、よさを認め合う支持的風土のある学級・学年づくりを通して、自己肯定感・有用感を育てる。

- ・ 計画的に人権教室を実施し、特別に支援を必要とする児童を中心に据えた学年・学級経営を行い、互いを認め合う温かい雰囲気醸成する。
- ・ 全職員で、子どもたちのいいところを見つけ、認め、ほめて、伸ばす。また、子どもたちに出番や役割を与え、承認・称賛する。ほめる風土をつくる。
- ・ 児童相互に些細な行動や善行をほめる「なかよしバルーン」活動を通して、よさや努力を認め合う。

ウ、学年や異年齢による交流活動、幅広い世代との交流・連携活動

- ・ たてわり活動や異学年交流、幼保こ小連携、小中連携の推進に加え、年齢を超えた幅広い交流活動や連携活動を積極的に行い、思いやりや感謝の心を育む。

エ、人権教育、いじめ・いのちについて考える取り組み

- ・ ふれあい道徳や人権・同和教育の推進を図り、「いじめをしない」「いじめを許さない」児童の強い心を醸成し、いのちを大切にすることを育む。
- ・ 毎月1日に「いじめ・いのちを考える日アンケート」を行い、子どものいじめや悩みについて把握し、いじめのない学校づくりを目指す。各学級担任で状況を把握し、指導を行い、保護者に知らせ、早期解決を図る。また、内容については、管理職、生徒指導担当に報告し、共有化を図る。

オ、感性を磨く教育の推進

- ・地域と連携した教育の推進で、豊かな体験活動やふれあう場を工夫する。
- ・本物にふれる場や芸術鑑賞の場、また読み聞かせなど心を育てる機会を大切にする。

(2) <知高め> 確かな学力が身に付く

ア、基本的な学習・生活習慣と学習態度の定着、家庭学習の充実

- ・発達段階に応じた学び方と基本的な学習習慣を定着させる。
- ・「家庭学習の手引き」を活用し、全職員で家庭学習習慣の徹底をめざす。

イ、わかる授業の実践と指導法の工夫・改善

- ・学習規律を確立し、人の話を最後まで聞ける子どもを育てる。
- ・自ら問いを見だし、主体的に考え、学び合い、よりよく課題を解決する学習過程を通して、問題解決能力の育成を図る。
- ・「楽しい」「わかる」授業を基本とし、ICT利活用、協同的な学びなど、児童が主体的に学ぶ授業を工夫する・GIGAスクール構想を推進する。

ウ、校内研究の充実と学習状況調査の活用

- ・校内研究において、算数科を中心に、自分の考えを表現し、進んで学び合う児童の育成を目指す。児童らの考えを「引き出す」「つなぐ」手立ての工夫をし、教師個々の指導力向上も目指す。
- ・学習状況調査の結果をふまえ、学力向上対策委員会で具体的な方策を示す。「児童らの考えを引き出し、つなぐ手立て」や「話し方・聴き方モデル」について全職員が共通理解し、主体的・対話的な学びにつながる授業を展開する。

エ、言語力育成とコミュニケーション能力の育成

- ・日常の学習・生活の中で明瞭な返事や発表(発言)を意識させ、対話のある学びを工夫する。
- ・学校行事や学習の中で、伝え合う活動・場面を設定し、言語活動を意識した実践を行う。

オ、読書を通し、本に親しむ～心の栄養と知高め～

- ・読書習慣の定着や必読図書(かせっこ本だな)などで、読書活動に楽しく取り組ませる。
- ・貸出冊数の目標、低学年は120冊、中学年は100冊、高学年は、80冊以上の読書の推進を図る。
- ・毎月2回の読書ボランティア(おはなしや)の読み聞かせで読書の幅を広げる。

カ、全校「立腰」の徹底

- ・やる気と根気、落ち着いた生活、集中力を培う。

(3) <体鍛え> たくましく自らを伸長する力が育つ

ア、健康教育・食教育の充実

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、基本的な生活習慣・生活リズムをつくり、心と体の健康バランスがとれた児童の育成を図る。
- ・養護教諭や学校栄養職員の専門性を生かした教育活動を展開する。

イ、外遊び、スポーツ活動の奨励

- ・休み時間を、集団または個で自分の好きな遊びに興じさせ、基礎体力づくりとルールや約束によるコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・佐賀県が取り組み行うスポーツチャレンジへの参加を奨励し、体力向上を図る。

ウ、給食指導の充実

- ・食物等のアレルギーを持つ児童については、保護者との連携を密にし、適切な配慮、体制のもと、安全・安心を最優先とし、給食を配膳する際には、栄養士、担任が連携し、確実な提供を行う。
- ・毎日の残食率を把握し、学級で極力残食が出ないように指導を行う。給食指導を通し、食と健康、食への感謝、給食関係職員や生産者への感謝につなげていく。

(4)＜市民性が育つ＞主体的に活動しやりぬく力が育つ

ア、学校を核とし、地域と連携した市民性を育む「ふるさと学習」の充実

- ・生活科、社会科、総合的な学習の時間において、地域の文化や歴史の教材化と活用、地域人材を活用により豊かな体験を取り入れた学習を工夫する。
- ・「市民性を育む教育」年間計画やめざす子ども像の系統性を理解し、各学年の実践を行う中で、児童の主体性や地域への愛着を育てる。
- ・地域行事へ積極的な参加・参画を促し、出番・役割・承認の場を与え児童の主体性を育む。地域との共催行事では実行委員として参画(出番・役割)させ、地域の一員であることを自覚させるとともに、地域から称賛(承認)を得る中で、自分への自信とふるさと愛(誇り)、さらには高い志の育成を図る。

イ、幼保こ・小・中の連携の強化

- ・年間を通して計画的な幼保こ小交流、昭栄中校区内の交流(小小、小中連携)を実施する。
- ・校区内の4園の年長児の学校体験を通し、幼保こ小連携の推進を図り、スムーズな入学へと仕向けていく。
- ・昭栄中学校、日新小学校、新栄小学校、本校の4校での小小連携や小中連携の推進・強化を図る。

(2)佐賀市の特色ある取組について

①幼保こ・小・中連携の取組

①幼保こ小連携の取組

- 接続期プログラム「えがおわくわく」を活用しながら、基本的な学習習慣・生活習慣の定着を図る
- 年間を通じた交流の場の設定
 - ・生活科の授業を中心とした1、2年児童と幼保こ園との交流会実施
 - ・相手意識を持たせた園児と児童との交流で、思いやりの心や自尊感情の醸成
 - ・どの学年児童もリーダーとなったり支えたりする経験を仕組んだ学習の実施
- 職員同士の交流
 - ・合同研修会の実施による情報交換と相互理解の推進

②小小・小中連携の取組

- ・継続した小小連携の取り組みと三校交流会の実施(6年生)
- ・中学校説明会、部活動見学、授業見学(6年生)
- ・協働体験(青少年の主張、運動会ボランティア)

②「いじめ・いのちを考える日」の取組

- 毎月1日の「いじめ・いのちを考える日」を中心とした取組
 - ・毎月1日「いじめ・いのちを考える日アンケート」実施と複数対応による事後指導の充実
 - ・全校朝会における「豊かな心育成部」職員による講話
- 諸調査、情報共有による初期対応の充実
 - ・毎月1回のいじめアンケートの実施による問題の早期発見と事後指導の充実
 - ・「教育相談・生徒指導協議会」における情報交換と指導内容の共通理解
 - ・「いのち」について考える教育講演会の実施(校区社共等との共催)
- 集会活動や授業の充実
 - ・全校集会やたてわり活動を活かした、「みんなが楽しい嘉瀬小学校」の校風づくり
 - ・全校で取り組む「なかよしバルーン」(友達のいいところみつめ)実施で他を認め合う集団づくり
 - ・道徳、性教育、各教科等との関連を図った学習の実施(「いのち」「生きる」「生命尊重」)

- ・ 自主的組織「人権リーダー」による人権意識を高める活動

③市民性を育む取組

- 「市民性を育む教育」年間計画とめざす子ども像を明確にした教育の工夫・実践
 - ・ 市民性を育む教育について共通理解を図る研修の実施
 - ・ 生活科、総合的な学習の時間の年間計画の工夫・改善(系統立てた教育の実践)
 - ・ 地域連携教育で育てたい力の明確化と計画的な評価
- 佐賀市および嘉瀬町の自然、歴史、伝統・文化を題材とし、地域の人や社会との関わりを持ちながら学習する「ふるさと学習」の充実
 - ・ 郷土愛を育む視点で、地域教育Coと連携した地域学習材の掘り起こし
 - ・ ふるさと学習支援事業(4年・6年)を利用した見学や体験学習の実施
- SDGsの視点を取り入れた取組
 - ・ SDGs 17の目標を教育課程(各教科年間指導計画や行事等)に位置付け、SDGs 17の目標を意識した、単元構成の工夫や集会活動、児童会活動等の取組みを行う。

(3)指導の重点7項目

①「いのち」を守る教育の充実(安心・安全な学校づくり)(SDGs 3、4、10、16)

- 特別な教科道德の授業内容の充実
 - ・ 学校教育全体を見通した道德教育の全体計画及び別葉の評価・改善
 - ・ 人権教室や校内研究との関わりを持たせ、「人権・同和教育」及び「SDGsの17の目標」の視点を取り入れた授業の工夫
 - ・ 「いじめ・いのちを考える日アンケート」との関連を図った指導の工夫・改善
 - ・ 体験活動との関連を図り、多様な学習場面の中で人間関係づくりや社会性の育成を図る。
- 「ふれあい道德(家庭や地域と連携した道德の時間)」の実施
 - ・ 保護者や地域の方の参加・協力による授業実践と家庭との連携を図る道德教育を推進する。
 - ・ 「ふるさと学習」との関連を図った郷土愛の醸成
- 道德的実践力の育成
 - ・ あいさつ運動やボランティア活動、総合的な学習を通して、道德的実践力を高める。
 - ・ 授業参観を利用し、外部講師を招いて、いじめやいのちについての講演会を開催
- 特別の教科道德
 - ・ 年間カリキュラムや授業実践の方法及び評価について、研修を通して共通理解を図る。
- 安全教育の徹底
 - ・ 不審者対応避難訓練、風水害避難訓練(引き渡し訓練も含む)、火災・地震避難訓練の実施
 - ・ 地域と連携した交通安全教室や避難訓練の実施
 - ・ 子ども110番の家の周知と通学路の安全点検
 - ・ 校内での安全対策の徹底と危機管理マニュアルを全職員で共有し、定期的に見直しを図る。

②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(学力向上)(SDGs 4)

【主体的な学びの視点】

- ・ 校内学力向上委員会で「問題解決的な学習」や「主体的に学ぶ児童の姿」について共通理解し、授業づ

くり(特に課題設定)を工夫しながら、主体的に学習に向かう児童を支援する。

- ・ 児童が①問いを見だし②ゴールを見据えた課題設定を行い③学習方法等の見通しを立て④学習に取り組み⑤学びをふり返り次の学習や生活につなげる、といった問題解決的な学習過程を重視する。

【対話的な学びの視点】

- ・ 学習過程に相互解決(学び合い)の時間を設定し、文章や言葉による表現活動をさらに充実させ、的確な表現ができるようにする。
- ・ 児童が自分の考えを根拠立てて表現できるような授業づくりの研究を行う。

【深い学びの視点】

- ・ 各教科における「見方・考え方」を働かせながら、「習得→活用→探求」の学習過程を意識した単元・授業づくりを行う。
- ・ 学習活動を振り返り、既存の知識と関連づけ、自らの考えとしてまとめたり、それを自覚したり、共有させたりさせながら、知識・技能を存分に活用・発揮するように支援する。

○ その他

- ・ 校内学力向上委員会の活性化、学力向上推進教員の支援で授業力向上をめざす。
- ・ 全校で望ましい学習習慣を確立し、落ち着いた授業態度を身につけさせる。

○ 家庭学習の充実

- ・ 基礎・基本の反復練習に加え、自主学習を充実させ、個に応じた学習習慣の確立を目指す。

○ 個別指導の充実

- ・ 学習の振返りや適用問題で習熟が不十分であったりつまずきが見られたりした児童には、業間の時間を利用し、個別指導をすることで学力の底上げを図る。

③特別支援教育の充実 (SDGs 7、10、16)

- ・ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善・克服に必要な支援を行う。
- ・ 支援を要する児童や課題について共通理解を図り、複数職員支援体制で対応する。
- ・ 特別支援コーディネーター、教育相談担当、SC等による研修会を実施し全職員のスキルアップを図る。
- ・ 必要に応じ、SC、特別支援学校、外部機関、行政等との連携を図りケース会議や支援会議、巡回相談等、適切な支援を心がける。
- ・ UDを意識した教室環境作り(前面掲示、教師机の配置、棚の目隠し・整理整頓等)について職員の共通理解を図る。
- ・ 保護者との連携を緊密に図り、全職員が保護者の思いを理解する機会を設ける。
- ・ 個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しと活用(前後期)を行う。
- ・ 学校生活支援員の支援状況を学期ごとに(3回)見直し効果的な支援につなげる。

④生徒指導の充実 (SDGs 5、7、10、16)

学校生活の中で互いを認め合い、一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動を進める。

基本的生活習慣や規範意識を身につけ、よく考え判断し行動できる子どもを育成する。

○ 各月の生活目標を心情面と行動面に分け、年間を通して系統的に指導していく。

○ 生徒指導・教育相談連絡会において情報共有を図り、いじめにつながる問題行動や新たな危機への対応について教師同士が学び合い、指導につなげる。

○ 情報端末機器の取り扱いについては佐賀市生徒指導協議会の申し合わせ事項や他校との情報交換を密にしながら、社会情勢に応じて指導にあたる。

○ 家庭や地域との連携

- ・ 各種便りの発行や講演会・学習会への参加要請による保護者への啓発
- ・ 校区内の民生委員、主任児童委員、交通指導員、地域住民等との連携
- ・ パトロール車を利用したPTAによる安全パトロールの実施
- ・ 老人会、自治会等による登下校時の街頭指導要請

○ 教育相談

- ・ 毎学期、担任が学級の全児童と面談を行う期間を設定する。(あのねタイムの実施)
- ・ 不登校児童、別室登校児童への対応、問題行動事案への対応は、ケース会議を開き、管理職を含め複数の職員でその支援にあたる。

⑤人権・同和教育の充実 (SDGs 5、7、10、16)

- ・ 学級目標を児童とともに作り、居心地の良い学級作りを基本にすえた学級経営を行う。
- ・ 「人権・同和教育」の視点に基づいた道徳授業の実施。
- ・ 授業参観、学級便り等を通して保護者への啓発。
- ・ 計画的な人権教室の実施。
- ・ 人権リーダーによる自主的な活動で人権意識の高揚を図る。
- ・ 「なかよしバルーン」「平和のちかい」等の継続した掲示で人権意識の高揚を図る。
- ・ 発達段階に応じた男女平等教育を実施する。
- ・ 保護者に対しても、学校通信、学級通信、保健だより等で「男女の性」「LGBTQ」等の学習した内容を紹介する。

⑥グローバル時代に対応する外国語教育の充実 (SDGs 4、17)

- 中学年では、「Let's Try!」を中心に取り組み、ALT と連携しながら会話やゲームなどを取り入れ、音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う。
- 高学年では、教科書を中心に取り組み、ALT と連携しながら身近な場面を想定した会話やゲーム、文化の違いについての学習を通して、伝え合う力の素地を養う「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。

⑦情報教育の充実 (SDGs 4、9)

- 情報及び情報技術活用に関する知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養を目指すとともに、各教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けることができるようにする。
 - ・ タブレット PC を活用した授業や自主学習に取り組む。
- 情報教育指導計画に基づき、情報モラル教育を生徒指導の重点項目として取り組む
 - ・ 児童に対しネット社会の危険性について学年に応じた指導を行う。
 - ・ 特別の教科道徳の時間との関連をはかり、思いやり、公共心等の心を育てる。
- プログラミング教育について、情報教育担当を中心に ICT 支援員を活用しながら取り組む。
 - ・ 年間指導計画において第 5 学年の算数科、第 6 学年の理科に位置付け取り組む。また、職員の指導力の向上のために研修を行う。
- 児童のインターネット利用等の実態調査と情報モラル教育の実施を行う。
 - ・ 定期的な実態調査と児童・保護者に対する啓発・指導の実施を行う。(参観日や懇談会の活用)
 - ・ P T A 活動と連携した研修等企画

(4)各教科等

各教科	○ 主体的に問題を解決し、共に学び合う授業の充実（一人一人の子どもを主語にする教育） ・ 児童が問いを見だし、ゴール(目標)を見据えて意欲的・継続的に学ぶ授業形態・指導方法の工夫 ・ 学習規律を守り、主体的に学ぶ力と学び合う態度の育成 ・ 小テスト・補充指導等による基礎基本の定着 ・ 言語活動の重視とコミュニケーション能力や表現力の向上 ・ 学習過程の統一、一貫したノート指導により学年間の接続をスムーズにする。 ・ ICT機器の効果的な活用を図ったわかる授業づくり ○ 家庭との連携による学習習慣の定着 ・ ICTを活用した宿題の工夫 ・ 「家庭学習がんばり週間」を設定し、保護者との連携による学習内容の定着と学年別目標学習時間の意識づけを図る。 ・ 「家庭学習の手引き」の活用 ・ 「嘉瀬小これにおまかせ」を活用した基本的学習習慣の定着 ○ 体験活動の重視 ・ 本物(その道のプロや地域学習材)にふれる体験の積み上げ。 【国語】 ◆言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成する。(SDGs 4) ① 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ② 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ③ 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 嘉瀬小としては ① 知識・技能について ・ 漢字や言語事項などの基礎・基本の日々の授業、家庭学習等を利用して確実な定着を図る。 ② 思考・判断・表現について ・ 学習課程に児童同士の関わりを取り入れた、多様な考え方を交流させたり、学んだことを使って表現したりするような言語活動を取り入れ、表現力の育成を図る。 ③ 主体的に学ぶ態度について ・ 読み聞かせや図書館祭り等、読書に親しみ言語感覚を養う活動の充実を図る。 <書写> ・ 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育成する。 ・ 文字の大きさや配列、書く速さ、毛筆を使用した時の穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことができるように、学習過程の中で自分の作品を見つめたり、児童同士が互いの作品のよさを見つけたりする活動を仕組む。 【社会】 ◆社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、グローバル化
----------------	--

する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民として資質・能力の基礎を育成する。(SDGs 1、2、8、9、11、16)

- ① 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域やわが国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- ③ 社会的事象についてよりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 地理や歴史、現代社会の仕組みや働き等、基本的な知識を理解し、課題を解決したり、追求したりする活動を通して、学んだことをまとめる技能が身に付くようにする。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 社会的事象に関する基本的な知識や概念の明確化を図り、調べてまとめたことをもとにして児童同士が考えを交流する対話的な活動を取り入れながら、表現する力を育む。
- ③ 主体的に学ぶ態度について
 - ・ 社会的な事象を自分事として捉えられるような教材の工夫をし、よりよい社会の実現にむけての主体性、社会の一員としての自覚を育む。

【算数】

◆数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

(SDGs 4・9・10・17)

- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- ② 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- ③ 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 掲示物を工夫し、視覚的に捉えることができるようにする。
 - ・ 基礎的基本的な知識(言語等)については、日々の授業や家庭学習等を利用して確実な定着を図る。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 図・式・言葉を使って説明をする活動を設定し、また多様な考え方を交流させたり、より良い考えを導き出したりするような活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ・ キーワードを用いて自分の言葉でまとめたり、順序を表す言葉を使って、筋道を立てて論理的に説明したりする活動を継続的に行う。また、「わがとも」を意識した振り返りを行う。

③ 主体的に学ぶ態度について

- ・ 単元の導入の工夫とゴールを明確にし、子ども達の意欲につながる主体性を育む。
- ・ 日常生活においても算数的な見方考え方ができるように、他教科との横断的な学習を意識した取り組みを行う。

【理科】

◆自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する。

(SDGs 6、7、9、13、14、15)

- ① 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- ③ 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 基礎的基本的な知識技能について、単元導入で既習内容のふり返りや実験道具等の操作の習熟を図る時間を設定し、知識・技能が身に付くようにする。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 観察や実験を通して分かったことをキーワードを使って実験や観察の結果をまとめる学習を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育てる。
- ③ 主体的に学ぶ態度について
 - ・ 児童の知的好奇心や探究心を高めるために、ICTを活用し、観察・実験や自然体験、科学的な体験を充実させた指導の工夫を行い、主体的に学ぶ態度を育てる。
 - ・ 自然の事象について日常生活と結び付けて考えられるような学習を行い、自然に主体的に関わろうとする態度を育成する。

【生活】

◆具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。

○幼保小連携の活動や地域の人材を活用した活動を行う (SDGs 11、17)

- ① 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- ② 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- ③ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 活動や体験を通して、自分や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりを通して、自分や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- ③ 主体的に学ぶ態度について

- ・ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

【音楽】

◆表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。(SDGs 3、11、14、15、16)

- ① 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- ③ 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 音楽を形作る要素や仕組みを理解する。
 - ・ 歌唱では、聴唱や視唱などの技能、自然で無理のない歌い方で歌う技能、声を合わせて歌う技能が身に付くようにする。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 歌唱のみならず、リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の楽器を演奏する活動を取り入れ、実際に音を出しながら、表現する場を設定する。
 - ・ 聴きとったこと、感じ取ったことを自分の言葉で表現できるようにする。
 - ・ 学習課題の解決のために、互いにアドバイスをしたり、演奏の仕方を考えたり、ふりかえりを行ったりする対話的な活動を取り入れる。
- ③ 主体的に学ぶ態度について
 - ・ 友達と気持ちを合わせて音楽を表現する場を設定する。
 - ・ ICTを活用し、音楽に興味関心を持ち、音楽に親しむ指導の工夫を行う。

【図画工作】

◆表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する。(SDGs 9、11、12、17)

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ③ つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 造形的な視点に基づき、材料の特徴を生かしながら、ものを作ったり絵を描いたりする技能が身に付くように、単元導入で既習内容のふり返りや道具等の使い方を学ぶ時間を設定する。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 児童自身のアイデアを紹介したり、相互鑑賞する学習活動を行ったりするなど、対話的な学習活動を取り入れ、造形活動のよさや美しさ、楽しさを味わわせ、思考力・判断力・表現力を養う。
- ③ 主体的に学ぶ態度について

- ・ 日常生活の中でも、学習活動の中で学んだ造形活動のよさや楽しさを生活に生かしていくように促し、豊かな心を育てる。

【家庭】

◆生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する。(SDGs 1、2、7、8、12)

- ① 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ② 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ③ 家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 授業では自分の生活を振り返らせ、日常生活と結びつけた指導を行い、実践を通して家庭生活に必要な知識・技能が身に付くようにする。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 日常生活の中から課題を見出し、めざす自分の姿を意識して学習に取り組み、課題に対して考えたこと、改善したことを振り返らせ、よりよい生活につなげる実践力を育む。
- ③ 主体的に学ぶ態度について
 - ・ ICT を活用したり実践的な活動を積極的に取り入れたりしながら、児童が家族や地域の一員として主体的に活動しようとする態度を育成する。

【体育】

◆体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。(SDGs 3)

- ① その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- ② 運動やスポーツ、健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③ 運動やスポーツに親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

嘉瀬小としては

- ① 知識・技能について
 - ・ 運動やスポーツの特性に応じたオリエンテーションを行い、楽しく体を動かすことで基本的な動きや技能が身に付くようにする。
- ② 思考・判断・表現について
 - ・ 運動やスポーツの特性に応じて、自分でめあてを考え、課題解決に向けて、互いにアドバイスをしたり、作戦を立てたり、ふりかえりを行ったりする対話的な活動を取り入れる。
- ③ 主体的に学ぶ態度について
 - ・ 運動やスポーツの特性に応じて、児童が主体的に安心して運動やスポーツを行えるような場の工夫を行う。
 - ・ 感染症予防の観点からも、保健指導を徹底し、健康と安全を意識した生活ができるようにする。

	・ 縦割りでの遊び等の時間を設定し、体を動かすことの楽しさを味わうことができる時間を設定する。 【外国語】 ◆外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。(SDGs 4、17) ① 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 嘉瀬小としては ① 知識・技能について ・ 学級担任やALTとの学習を通して、文化の違いを理解させ、基礎的なコミュニケーションが身に付くような手立てを仕組み、知識・技能の習得を図る。 ② 思考・判断・表現について ・ 学習活動の「話す・聞く・読む・書く」の中で、言葉やジェスチャー等を使ってお互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を設定し、伝え合う楽しさや喜びを感じ取らせながら、コミュニケーションの基礎的な力を育む。 ③ 主体的に学ぶ態度について ・ 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
特別の教科道徳の取組	◆よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多目的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。(SDGs 1、8、10、16) ・ 人権教室との関わりを持たせ、「人権・同和教育」の視点を取り入れた授業の工夫をする。 ・ 心と体、いじめやいのちに関するアンケートとの関連を図った指導の工夫・改善をする。 ・ 「ふれあい道徳」を実施し、家庭で話題にして会話を増やしたり、理解や協力を求めたりすることで、学校と家庭が一貫した指導をしていく。 ・ 校内研究や体験活動、他教科との関連により、具体的な場面を意識することでより実践的な内容となるよう指導の工夫・改善を図る。

外国語活動 (3・4年生)	◆外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。 (SDGs 4、17) ① 外国語を通して言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 ② 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 ③ 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 嘉瀬小としては ① 知識・技能について ・ 学級担任や ALT との学習を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。 ② 思考・判断・表現について ・ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合う場を設定し、他者とコミュニケーションを図る資質・能力を育む。 ③ 主体的に学ぶ態度について ・ 他の国々の言語や文化について理解を深めさせ、相手の気持ちを理解しようとする能力と心情を育む。
総合的な学習の時間の取組	◆探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。 ① 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようにする。 ② 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ③ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 嘉瀬小としては ① 知識・技能について ・ 地域の人材を活用することで、郷土を大切に思う心を育てるとともに、自分の学習課題について学ぶことの楽しさを感じ取らせ、課題の解決に必要な知識及び技能が身に付くようにする。 ② 思考・判断・表現について ・ 活動テーマを 3年…福祉・地域理解をテーマにした体験活動 (SDGs 1、3、8、11) 4年…地域理解・自己理解をテーマにした体験活動 (SDGs 11、17) 5年…環境、地域文化・自己向上をテーマとした体験活動 (SDGs 14、15、17) 6年…地域文化・自己向上をテーマとした体験活動 (SDGs 8、10、11、16、17) とし、地域の様々な人・自然・事柄と関わりながら、問題解決のための探究活動や体験活動を通して、主体性・協調性・責任感・思いやりの心、郷土愛など市民性が育まれた児童を育てる。 ③ 主体的に学ぶ態度について ・ 多様な人々と関わったり、体験的な活動をしたりすることを通して、自ら進んで課題解決に取り組む児童を育成する。

特別活動(学級活動)の取組	◆集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団内での行動の仕方や合意形成を図ったり、意思決定をしたり、自己実現を図ろうとする態度を養う。 (SDGs 3、10、12、13、14、15、16、17) ① 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 ② 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 ③ 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 ④ SDGs の視点に立った活動計画を練り、友達、学校、地域とそれぞれのつながりの中で自分たちができることを具体的に考え、行動していく。 嘉瀬小としては ① 知識・技能について ・ 運動会や6年生を送る会などの行事において、総合的な学習の時間と関連させ、児童が創意工夫した内容を入れ、人と関わる力やコミュニケーション能力を育む。 ② 思考・判断・表現について ・ 各学級における学級会では、学年に応じた話型に沿って話し合いを進める中で、合意形成の図り方について学ばせる。 ③ 主体的に学ぶ態度について ・ 児童自ら学級(学校)の課題を見つけ、話し合い、解決していく意識を養う。 ・ 総合的な学習の時間と関連した児童の主体性が発揮できる活動を計画し、児童の計画的・自発的・自主的な活動を促進する。
キャリア教育の取組	○ 自己を見つめる場の設定 (SDGs 1、5、8、10、16、17) ・ 特別の教科道徳や学級活動を通して自分自身を見つめたり自己の生き方を考えさせたりする。 ○ 身近な人の生き方について学ぶ場の設定 (SDGs 8、11) ・ 町探検、施設見学等、教科の学習と関連させながら学び考える機会をつくる。 ・ 地域の人々との学習や地域行事への参加を通して、身近にいる大人の生き方に学んだり感じ取ったりすることで自分の将来について考える機会をつくる。 ○ キャリアパスポートの活用 (SDGs 4) ・ 学級活動の時間に、児童の学期ごと、学年ごとの目標やふりかえりを記録していく。 ○ 進学(中学校)について考える場の設定 (SDGs 4) ・ 中学入学事前説明会での体験授業など中学校生活にふれる場を設ける ・ 同一中学校区の6年生と交流する機会を作り、中学校生活に対する期待を抱かせる。
環境教育の取組	・ SDGsの視点で委員会活動を中心とした啓発活動の充実を図る。(SDGs 6、7、11、12、13、14、15) ・ 学校版環境 ISO を推進し、キックオフ宣言をした後、定期的にチェックを行い、意識を高める。 ・ 学校だけでなく、家庭、地域にも呼びかけて環境のためにより行動を地域ぐるみで実践できるよう啓発活動を行う。 ・ アルミ缶回収を通して、リサイクル活動の意欲や環境美化意識を高め、実践力をつける。

読書指導の取組	・ 学年に応じた目標冊数(低学年 120 冊、中学年 100 冊、高学年 80 冊)の設定、掲示物等による児童への意識づけ。 ・ 学年に応じた必読図書(かせっ子本だな)の設定、認定証による意欲喚起 ・ 保護者への図書館開放で家庭における読書の推進(長期休業等) ・ 調べ学習の場としての図書室の役割 (SDGs 4)
食に関する教育	・ 日々の給食を通した食への興味関心の喚起 (SDGs 2) ・ 「食に関する指導計画」に基づいた各教科・特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習の時間等での取組 ・ 担任と学校栄養職員とのTTによる学年に応じた具体的な指導(全学級)
教育課題への対応	【学力向上】(SDGs 4) ・ 学びの課程(めあて→問題→見通し→まとめ・ふりかえり)を全教科で取り組む。 ・ 全教科で、自分の考えを基にペアやグループで話し合う活動と自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・ 児童が主体的に課題解決能力を育てる授業づくりを行う。(学習課題の設定、問題提示の工夫、学び合いの工夫など) 【健康教育】 ・ 基本的な生活習慣の確立と衛生に対する習慣化を図る ・ 担任と養護教諭とのTTによる学年、時期に応じた保健指導の実施(全学級) ・ 外部講師等を活用した健康教育授業(薬物乱用防止など)の充実、意識啓発 【地域連携】(SDGs11、17) ・ 地域・PTA と連携した教育活動と「どうようひろば」など KSVN 活動の充実 ・ 地域人材の活用による学習支援ボランティアの活用 ・ 「ふれあい水曜日(スズメサロン)」の充実 ・ 地域教育Coと連携した地域学習材の掘り起こし 【業務改善・働き方改革】 ・ 定時退勤日を設定し、徹底する。 ・ 職員同士の声を掛け合いやふれあいを大切にし、分掌事務等組織で対応することを徹底する。 ・ 残業時間を毎月確認し、月の上限 4 5 時間を意識させる。

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略称であり、一般的に「持続可能な開発目標」と訳されています。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

SDGsは発展途上国だけでなく、先進国においても取り組む必要があるユニバーサル（普遍的）なものであり、経済・社会・環境の三つの側面を不可分のものとして調和させる統合的な取組として策定されています。